

## がん教育実施報告書

学校名	福島県立安積黎明高等学校		
実施対象者 (学年・保護者など)	1 学年		
教育課程の位置づけ	体育・保健体育	道 徳	学級活動・HR 活動 講演会・行事 その他 ( )
実 施 日 時	令和5年12月5日(火) 10:45 ~ 11:45		
打合せについて	【1回目】方法：電話	内容：講演内容、準備物について	
	【2回目】方法：	内容：	
外部講師 職・氏名	職名 看護師	氏名 戸室 真理子	
実 施 内 容	<p>【講話】</p> <p>「がん患者への理解と共生」</p> <p>「緩和ケア」</p> <p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・がん患者への理解</li> <li>・がん患者との共生</li> <li>・緩和ケアについて</li> </ul>		
	<p>【指導過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講演会の内容を踏まえて、「がん患者への理解と共生」「緩和ケア」について、今後の生活にどのように活かしていくか、自分の考えをまとめる。</li> </ul>		

## 成果等

## 【生徒の感想】

・緩和ケアについて、あまり知識をもっていなかったが、講演会の内容を家族に伝えて健康に過ごすことができるようにしたい。万が一、家族ががんの診断を受けた時には、今回得た知識を活用して行動したいと思った。

・がんについて考え、学ぶということはあまりない機会なので、今回の講演会はとても貴重な時間だった。今回講演会の機会をつくっていただいたことに感謝し、自分や周りの人を護ることができるように生きていきたい。

・今、当たり前に行っていることが、とても幸せなことだと改めて実感することができた。緩和ケアについて学ぶことで「がんにかからないためにはどうしたらよいか」だけでなく「がんにかかったあとにどう行動したらよいか」ということも考えるべき重要なことだと感じた。

・これからの人生において、とても大切な話を聞くことができた。「死」は怖くて不安なものだが、「死」について考えることは、「生きる」を考えること、という言葉聞いて共感しました。日常生活で当たり前に対するありがたさを忘れず、今を楽しむとともに、これからをどう生きるべきかを真剣に考えたいと思った。

・今回の講演会で、緩和ケアとはどのようなものなのかを学ぶことができた。祖父が2年前にがんになった時には、私自身知識もなく不安と絶望の毎日でした。現在、祖父は治療も終わり無事に退院しているので、今回学んだことを活かして、今からできることを考えていきたいと思った。

## 【外部講師を活用した感想】

・実例も踏まえて専門家から伝えていただくことで、教科書の内容を伝える授業よりも実感しやすく、とても有意義な時間だった。

## 【課題】

・講演会実施の前年度から講師の依頼ができると予定が組みやすくなり、もっと活用しやすくなると思う。